専門研修プログラム名	北海道大学病院精神科神経科専門医研修プログラム	専門研修プログラム
基幹施設名	北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室	
プログラム統括責任者	橋本 直樹	

専門研修プログラムの概要	精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	基幹病院となる北海道大学病院は、開放・閉鎖病棟の2病棟を備え、70床の病床数は大学病院では最大規模を誇る。外来患者数・入院患者数はともに大学病院としては全国トップクラスの数字を長年にわたって維持しており、症例の豊富さは群を抜いていると思われる。統合失調症や気分障害、神経症性障害、認知症などの主要な精神疾患に加え、てんかんと摂食障害の症例数も多く、重症患者が全道から集まってくる。市内４つの総合病院精神科として身体合併症事例にも対応しており、アルコールを筆頭に物質関連障害患者への治療を他科とも連携して行い、地域への治療継続移行できる様にも尽力している。また2022年度からは新たに司法精神医療センターが開設され、司法精神医学の領域についても専門的な研修が可能となる。40年以上の年月をかけて築き上げてきた徹底的な教育については最大の特色であり、指導教官による講義の総計時間は120時間を超えるほか、豊富な症例を指導医と担当しながらマンツーマンの指導が得られる。	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	治療法においてもbio-psycho-socialの各領域に偏りなく注力し、多職種チームによる心理社会的治療の重要性を学ぶ。
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	症例カンファレンスも毎日のように開催され、活発な議論を通じて深く学ぶことができる。また、各疾患の専門グループを数か月毎にローテートすることで、全ての分野を網羅的に研修できる。
	学問的姿勢	専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心がける。その中で特に興味ある症例については、北海道精神神経学会や日本心身医学会北海道支部例会等での発表や医学雑誌などへの投稿を進める。常に行われている多数の臨床研究に参加することもでき、専攻医のうちから最先端の研究に携わることもできる。

	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	研修期間を通じて、１）患者との治療関係の構築、２）多職種チーム医療の実践、３）安全管理、４）症例プレゼンテーション技術、５）医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。医療安全、医療倫理、感染対策などに関する院内講演会や研修会は多数準備されている。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾンコンサルテーション、心理社会的療法といった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	基幹病院と関連施設群での検討を行い、地域医療を担うにふさわしい人材育成となるよう、年度ごとに見直しをおこなう。
	研修施設群と研修プログラム	連携施設は16施設あり、全国的にみても最も規模の大きな施設群の一つであると思われる。長年にわたって研修体制を構築してきた道内14の連携施設はいずれも地域の中核病院であり、「最後の砦」として機能すべくプログラムを作成している。
	地域医療について	広大な北海道の精神科医療体制を維持および向上できるよう、基本的な精神医学を学びながらそれぞれの地域での特性についても肌で感じ、現場に即した医療を提供できるような研鑽を積む。
専門研修の評価	専攻医に対する指導内容は、統一された専門研修記録簿に時系列で記載して、専攻医と情報を共有するとともに、プグラム統括責任者（橋本直樹）およびプログラム管理委員会（４．に記載したメンバー）で定期的に評価し、改善を行う。	
修了判定	上述の複数のスタッフにより行われた評価に基づいて、最終的にはプログラム責任者が修了の判定を行う。	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	3ヵ月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
	専攻医の就業環境	各施設の労務管理基準に準拠する。
	専門研修プログラムの改善	基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。
	専攻医の採用と修了	教授・医局長が履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	各施設の健康管理基準に準拠し、それから逸脱が生じた場合。
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	適宜現地を訪問し、指導医および専攻医それぞれから研修状況の確認および聴取を行う。

専門研修指導医 最大で10名までにしてください。主な情報として医師名、所属、役職を記述してください。	橋本 直樹　北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室　准教授、成田　尚　北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学助教、細川嘉之　市立札幌病院　精神科部長、渡辺晋也　国立病院機構北海道医療センター　精神科医長、笹川 嘉久　小樽市立病院
Subspecialty領域との連続性	2014年から児童思春期精神医学部門が開設され、国内でも数少ない児童精神医学を専門的に学ぶことのできる大学病院である。2022年度からは新たに司法精神医療センターが開設され、司法精神医学の領域についても専門的な研修が可能となる。